

# 天平礼賛 — 高遠なる理想の美

2020年10月27日(火) — 12月13日(日)



A



B



C



D



G



E



F



H



I



J

- A 重要文化財 執金剛神立像 快慶作 鎌倉時代・12-13世紀 京都・金剛院
- B 菩薩坐像(部分) 奈良時代・8世紀 神奈川・龍華寺(神奈川県立金沢文庫保管)
- C 阿弥陀如来坐像(部分) 奈良・江戸時代・8/17世紀 兵庫・金蔵寺
- D 執金剛神立像 竹内久一作 明治26年(1893) 東京国立博物館
- E 黄地唐花文夾縹羅(正倉院伝来) 奈良時代・8世紀 東京国立博物館
- F 淡縹地唐花文錦(正倉院伝来) 奈良時代・8世紀 東京国立博物館 (D-F Image:TNM Image Archives)

- G 重要文化財《天平の面影》 藤島武二作 明治35年(1902) 石橋財団アーティゾン美術館(旧ブリヂストン美術館)
- H 十種銘香のうち 蘭奢待 東南アジア・8世紀か 徳川美術館(©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom)
- I 国宝 賢愚経(部分) 奈良時代・8世紀 公益財団法人 白鶴美術館
- J 重要文化財 東大寺戒壇院厨子扉絵図像(部分) 平安時代・12世紀 奈良国立博物館 (A・J 画像提供 奈良国立博物館(森村欣司撮影・佐々木香輔撮影))

天平 —— ノスタルジーすら覚えるその響きは、ひとつの元号であることを超越して奈良時代そのものを象徴して私たちの胸に迫ります。本展では、この天平美術をテーマに国宝5件・重要文化財23件を擁する100件余りの作品をご紹介します。時代は古代から近現代に至り、絵画・彫刻・工芸・書蹟といった多岐にわたるジャンルによる夢の競演です。

信仰に裏付けされた造形の継承と古像に着想を得た新たな創作(図A・D)、天平写経(I)とそれを劈頭に飾る手鑑の文化、天下の名香として誉れ高い香木・蘭奢待(H)をめぐるものごたり、頒布された正倉院裂(E・F)の行方、そして理想の美人としての樹下美人図(G・J)の系譜など、作品が紡ぎだすのは天平美術を礼賛し続けてきたこの国の文化と歴史です。

また、難波宮跡や四天王寺など大阪における天平の美にもご注目ください。さらに、兵庫・金蔵寺の阿弥陀如来像(C)と神奈川・龍華寺の菩薩像(B)は、かつてともに大阪に安置されていた可能性が指摘されています。この貴重な天平の乾漆仏が大阪で歴史的邂逅を遂げます。こうした作品相互のつながりを感じられる展示構成も本展の見どころです。

日本人の美意識のひとつの核であり続けた天平美術。それは天然痘が蔓延する中で生まれた究極の美が生き続けた証でもあります。岡倉天心が「高遠なる理想美」と呼んだ日本の古典の美の世界とそれを礼賛した歴史を、価値観が多様化し世界的に感染症が広まるいまこそ、ぜひご堪能ください。

(児島大輔)

※会期中展示替えがあります。詳細は当館HPをご覧ください。